

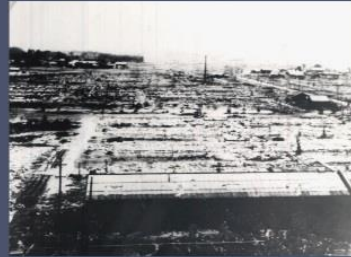
空襲後の豊川海軍工廠



工廠中央部から南東方面を望む



光学部・指揮兵器部事務所付近



光学部調整工場から南方を望む



雷管圧搾工場



光学部調整工場から西北方面を望む

空襲体験者の証言

あの朝、夜勤者の父替までもなくの九時半頃、けたまわしい空襲警報のサイレンが、斉に鳴り響いた。……

「直ちに外に避難。事務所の前に集合」と放送が流れ、私たちは一車外に出ました。すると……

昭和二十一年八月七日、朝から灼熱の太陽がじりじりと照りつけていたその日、私は十八歳、棟十五歳の時でした。……

お屋と大腎部に破裂した破片がくすぶり込み、激雨と流れ出る血を見て、もうこれでダメかと一時はあきらめ……

8月7日午前十時ごろ、私の記憶では麻呂放送「空襲警報発令……空襲警報発令」が放送された……